

# 木之本小学校からの報告

## 水生生物調査結果

調査場所名 ( No. )		意富布良神社南側 No.1	北部振興局東側 No.2	黒田集落付近 No.3										
月	日	5月30日	6月26日	7月10日										
時	刻	15時00分	15時15分	15時15分										
天	気	晴れ	晴れ	晴れ										
水	温 ( °C )	23.1 °C	25.2 °C	26.0 °C										
気	温 ( °C )	27.0 °C	28.0 °C	28.0 °C										
川	幅 ( m )	0.4 m	1.5 m	1.2 m										
河	川 名	赤川支流	用水路	水路										
生物を採取した場所		全面	全面	全面										
水	深 ( cm )	15cm	20cm	35cm										
流	速 ( cm / s )	40.0 cm/s	120.0 cm/s	40.0 cm/s										
水	のようす	指標生物												
I きれい	1	カワゲラ類												
	2	ナガレヒケラ・ヤマトヒケラ クロツツヒケラ類												
	3	ヒラタケロウ類												
	4	ブユ類												
	5	ヘビトンボ類												
	6	カガンボ類												
	7	サワガニ	●	○										
I・II 共通	8	ウスムシ類												
	9	2以外のヒケラ類												
	10	3、14以外のカゲロウ類	○	○										
II 少しよごれている	11	ヒラ外ロムシ類												
	12	シジミ類	○											
II・III 共通	13	カワニナ	○	●										
III よごれている	14	サホコカゲロウ												
	15	ヒル類												
	16	ミスムシ	○											
	17	モノアラガイ												
III・IV 共通	18	サカマキガイ												
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ												
	20	イトミス類	○	○										
	21	ハナアブ類												
水 質 判 定 表	水のようすの区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	1	1	2	1	1	3	1	1	2	2	1	1
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0
	合 計 (1欄+2欄)		2	1	2	1	1	4	2	1	2	3	2	1
判定結果(合計が最も大きい区分)		I				II				II				

## 調査考察、活動内容等

木之本小学校のみずすまし調査隊（理科クラブ）は、4年生5名・5年生3名・6年生3名の計11名の隊員で構成されています。

本校は田上山麓の斜面に位置し、学校の周辺にはゆるやかに流れる河川は少ないです。唯一、田上山の谷間から流れ出る細い川（赤川の支流）があるだけです。その支流は本校から徒歩で5分ほどのところ、伊香高校の校門のすぐ前を流れていて、これまでも毎年調査している地点です。



しかし今年度は天候の影響で、この川は水流がほとんどなく観察不可の状況であったため、以前からの調査地点である学校近くの意富布良（おほふら）神社前を流れる用水路（赤川の支流）を調査することにしました。また例年との比較を考察するため、北部地域振興局東側の水路と、学校から自転車で10分ほどの黒田集落内の川も調査地点とし、今回は計3つの地点について調査したことを掲載します。

### 子どもたちの考えた予想

3カ所の調査地点から考え、水質の一番きれいなところは第1調査地点である神社前ではないかという予想を立てました。田上山のすぐ横を流れ、水源に近いので、汚れも少ないと考えたからです。

また、余呉川の水を取り入れている黒田集落の川もきれいではないかと考えました。比較的大きな余呉川は中流ですが、水もきれいではないかと思ったからです。

北部振興局の東側は、住宅地の中を流れるので、少し汚れていると予想しました。

第1回調査 5月30日（火）15:00～15:40

調査場所 意富布良（おほふら）神社前を流れる用水路（赤川の支流）



この川は意富布良神社の南側地点を東西に流れる用水路（赤川の支流）で、川幅は約40cm、水深は約10～20cm程度の小さな川です。両側がコンクリートで固められていて、天候によっては渇水状況となります。調査日には水流が見られ、水温23.1℃の川に様々な指標生物を見つけることができました。結果として、水質階級Ⅰのサワガニを一番多く観察することができ、調査した水生生物の半数以上を占めました。水の

様子や水質は「きれいである」と言えますが、一方でカワニナやミズムシ、イトミミズも見られました。また、調査地点ではあまり見ることのない「ヒシの実」が流れていました。田上山の貯水池付近に群生し、それが流れとともに下ってくるようでした。

（4年）

この川には、ふだんからよく遊びに来ます。サワガニがたくさんいて良かったです。この水はきれいだなと思いました。でも、イトミミズもいたので、きれいに見えるけどきたない所もあるんだなと思いました。

第2回調査 6月26日(月) 14:30~15:20  
調査場所 北部地域振興局の東を流れる用水路



この川は北部地域振興局の東側、JR沿線にあります。例年、継続して観察している地点です。今までは余呉川の支流と考えていましたが、どうやら第一観察地点の水がJR下を超えて流れが来ていることが判明しました。川幅は1.5~2mほどで両側はコンクリートで固められています。上から見ると空き缶や菓子の袋などゴミが目立ち、川に入ると川底は砂というよりは泥が堆積していて、水草もぎっしり生えていました。水深は浅く、流れはやや速く、ザリガニや

魚が見られました。前回の意富布良神社南側地点(赤川上流)に比べると水質は良くないように感じられました。

調査してみると、多く見つかったのはカワニナで、ヒル類やイトミミズ類も見られました。住宅街の中の水路ではあり、川の水質は、「少しよごれた水」だと言えます。

(5年)

水草がぎっしりで、ゴミがたくさんあった。ザリガニや小魚がいてびっくりした。こんな川に魚がいるとは驚いた。カワムツ、ドンコ、タナゴが見つかった。

第3回調査 7月10日(月) 14:40~15:20  
調査場所 黒田地先余呉川支流



この川は黒田地区の北部にあり、余呉川から水田に引き込んでいる人工の水路です。ブロックや石垣で作られたその川は、幅120cm、水深は30~40cmほどで、ゆるやかに水が流れています。周辺整備された水路にはドジョウやザリガニなどがたくさん生息し、地域の方が自然と気軽にふれあえるスポットになっています。

下見では、藻がたくさんあり、たくさんの生物が観察できそうでしたが、前日に地域の作業で藻が刈られて少々残念な様子でした。見た目は透明できれいに感じられましたが、少しよごれている指標生物であるカワニナが一番多く見つかり、また、大変よごれている水の指標となるイトミミズも見つかりました。これは過去の調査と同様の結果で、吸水している余呉川自体に生活排水が流れ込んでいて、「少しよごれた水」になっていたと考えられます。

(4年)

黒田の川の特ちょうは、きれいな川にいる生物ときたない川にいる生物がいたので、目で見ただけではわからないなと思いました。大きなザリガニがいました。講師の植田先生の話では、藻が多いとザリガニが赤くなると聞きびっくりしました。

## 調査を終えて

児童は、川の中にはいろいろな生物がすんでいて、それぞれに名前がついていることにびっくりしていたようでした。また、水生生物の調査を継続してすることにより川の水質の変化や前後の天候によって影響されることが分かり、興味を持って取り組んでいました。見た目ではきれいな川だと思えても、実際はそうではなかったという事実を目の当たりにし、水生生物調査の意義を体感していました。



今後は調査の結果を踏まえて、児童が環境にもっと関心をもち、自分たちにできるような取り組みはどんなものかを考える機会にしたいです。また、理科クラブ数名だけの取組から各学年・全校への取組に広がるよう、ポスターや調査結果などを掲示し働きかけていきたいです。水質の観点から言えば、同地点の継続観察をし、水環境の変化にも目が向く大切な学習であると考えています。

